

参考様式

令和5年度みどりの食料システム戦略緊急対策交付金のうちグリーンな栽培体系への転換サポート

産地戦略

事業実施主体名： 阿波市みどりの食料システム推進協議会

都道府県名： 徳島県 対象品目： 露地野菜（ブロッコリー）

策定年月： 令和6年3月 目標年次： 令和10年

※事業実施計画における目標年度の翌年度から5年目とする。

環境負荷軽減の取組

○	化学農薬の使用量低減	○	化学肥料の使用量低減		有機農業の取組面積拡大		温室効果ガスの削減 (水田からのメタンの発生抑制)
	温室効果ガスの削減 (バイオ炭の利用)		温室効果ガスの削減 (石油由来資材からの転換)		温室効果ガスの削減 (プラスチック被覆肥料対策)		温室効果ガスの削減 (CO ₂ 、N ₂ Oの排出削減)

※ 複数の栽培体系を検討した場合は、栽培体系ごとに産地戦略を策定すること。

第1 事業実施地域の現状と目指すべき姿

1 事業実施地域

徳島県阿波市（全域）

※事業実施計画書第1の4の事業実施地域を記載。

2 事業実施地域の現状

阿波市では、県計画において特別区域を設定し、目標年度には有機農業を実践する農業者の育成、団地化を目標として掲げているが、有機農業の実践・普及には農産物の安定供給に必要な技術確立、さらには消費者の理解等基盤づくりが必要であり一朝一夕に達成できるものではない。
そこで、まずは、園芸産地である本市の基幹品目であるブロッコリーについて、環境負荷低減に繋がる取組みを推進し、有機農業への転換に向けた礎の構築を進める。

※1の事業実施地域の現状について、実施しようとしている環境負荷軽減の取組の実施状況等、課題と認識している点について具体的に記載。

3 事業実施地域の目指すべき姿

安全・安心な農産物の生産手法や環境負荷低減への取組みを推進し、低コストで省力的な農業経営の実現とともに、消費者の環境保全型農業への理解と認知度向上に取組み、農業者と消費者が一体となった持続的な産地形成を進めていきたい。

※事業実施地域内へのグリーンな栽培体系の普及により、2に記載した課題がどう改善され、どのような姿になるのかを具体的に記載。

第2 グリーンな栽培体系の普及に向けた取組

1 今後普及すべきグリーンな栽培体系

ア 取り入れる技術

	取り入れる技術	期待される効果
環境にやさしい栽培技術	有機質肥料（基肥一発処理）の導入 生分解性マルチの導入	化学肥料の使用量低減 化学農薬（除草剤）の使用量の削減
省力化技術	有機質肥料（基肥一発処理）の導入 生分解性マルチの導入 農業用ドローンによる農薬散布	追肥作業工程の削減 除草作業工程の削減 散布作業時間の約90%短縮、労力の軽減 （ドローン10分/10a、動噴120分/10a ※実測値及びH30県経営指標

※環境にやさしい栽培技術欄には、表紙で選択した環境負荷軽減の取組に対応する技術を記載。

※省力化技術欄について、環境にやさしい栽培技術欄に記載した技術と同一技術の場合は再掲する。

※期待される効果は、検証結果、計画書に添付したバックデータ等を踏まえて、可能な範囲で定量的に記載する。

※行は適宜追加してください。

イ 現在の栽培体系

項目	作業時期														備考													
	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月			11月		12月		1月		2月		3月				
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
作業							播種○						定植△															
技術							土作り、基肥						追肥①②③④			防除												

※事業実施地域における現在の一般的な営農体系を記載。

※作業時期は作物の栽培期間等に応じて調整可能。



ウ グリーンな栽培体系

項目	作業時期														備考													
	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月			11月		12月		1月		2月		3月				
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
作業							播種○						定植△															
技術							土作り、基肥（有機質肥料）						マルチ被覆			ドローン防除												

※アで記載した「環境にやさしい栽培技術」及び「省力化技術」が、栽培体系のどの工程に取り入れられるのか明確に記載。

2 新たな栽培体系の普及に向けた目標

ア 環境負荷軽減の目標

指標		年度	R5 (現状値)	R10 (目標値)	増減率 (%)	備考
1	化学肥料の使用量低減 (窒素成分量)		35kg/10a	18.7kg/10a	▲47%	現状値 徳島県の主要農作物施肥基準より
	単位	kg/10a				
2	化学農薬 (除草剤) の使用量の削減		1回	0回	▲100%	現状値 JAグループ作成のブロッコリー栽培基準より
	単位	回				
3						
	単位					

※指標欄については、表紙で選択した環境負荷軽減の取組に応じて指標を設定する (化学農薬の散布回数、成分数、化学肥料の使用量、窒素成分量 等)。

また、設定した指標の単位が分かるように記載。

※目標値は表紙の目標年次における目標値を記載。

※増減率は $\text{目標値} / \text{現状値} - 1 = \text{増減率}$ で算出。

※化学農薬の使用量低減の取組については、化学農薬の使用量の低減割合の目標を設定する。ただし、導入する技術により、使用量の低減の確認が困難な場合は、取組面積の目標を設定する。

※化学肥料の使用量低減の取組については、化学肥料の使用量低減割合の目標を設定する。

※有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減の取組については、新たに取り入れる技術の取組目標面積を設定する。面積以外の指標で目標設定ができる場合は追加で設定することも可能。

※温室効果ガスの削減の取組については、ウにおいて取組面積の目標を設定することで、環境負荷軽減の目標設定に代えることができる。複数の技術を取り入れる場合に、個別の技術について取組面積の目標を設定する場合等、グリーンな栽培体系の取組面積以外に目標設定する場合は、アにおいて目標を記載することができる。

※備考欄には、現状値等の出典 (現行のJA等の栽培暦、都道府県や市町村等の指標、検証農家の作業日誌や帳簿等からの試算など) を記載。

※1つの栽培体系で複数の環境負荷軽減の取組を組み合わせる場合は、取組ごとに指標を設定し、記載欄が足りない場合は適宜追加する。

イ 省力化目標

指標		年度	R5 (現状値)	R10 (目標値)	増減率 (%)	備考
1	追肥回数の削減		3回	0回	▲100%	現状値 収穫までに2～3回実施
	単位	回				
2	除草剤処理作業工程の削減		1工程	0工程	▲100%	現状値 除草剤散布による雑草管理
	単位	工程				
3	農薬散布時間の削減		5時間/ha	1時間/ha	▲80%	現状値 R5実測値
	単位	時間/ha				

※指標欄については、原則、取り入れる省力化技術に応じて、作業人員の削減、作業時間の削減、作業工程の削減の目標を設定する。複数設定する場合は、適宜記載欄を追加する。

※目標値は表紙の目標年次における目標値を記載。

※増減率は $\frac{\text{目標値}}{\text{現状値}} - 1 = \text{増減率}$ で算出。

※アシストスーツなど、定量的な目標設定が困難場合は、指標は当該技術を取り入れる面積とし、備考欄を追加して検証を行った農業者に対するアンケート等により確認した省力化の効果を記載。

※備考欄に現状値の典拠（統計値、都道府県の農業経営指標、JA等の栽培暦、検証農家の作業日誌等からの試算など）を記載。

ウ 普及を目指す面積

(単位：ha)

指標		年度	R5 (現状値)	R10 (目標値)	増減率 (%)	備考
対象品目全体の作付面積			250	260	4%	
うち、グリーンな栽培体系に取り組む面積			1.2	10	733%	
普及割合			0%	4%		

※対象品目全体の面積については、事業実施地域全体の面積（母数）を記載する。水稻（主食用米）を対象品目とする場合は、水田収益力強化ビジョン等における主食用米作付面積の傾向を踏まえて目標値を設定すること。

※目標値は表紙の目標年次における目標値を記載。

※増減率は $\frac{\text{目標値}}{\text{現状値}} - 1 = \text{増減率}$ で算出。

※「うち、グリーンな栽培体系に取り組む面積」欄には、第2の1のウに記載する「グリーンな栽培体系」に取り組む面積を記載する。

※生分解性マルチへの転換等、1つの栽培体系を複数品目に適用する場合等であって、品目別に目標を設定する場合は、品目ごとに表を作成。

第3 関係者の役割分担及び取組内容

構 成 員	役割分担及び取組内容				
	令和6年度	7年度	8年度	9年度	10年度 (目標年次)
徳島県 (普及組織：吉野川農業 支援センター)	<ul style="list-style-type: none"> ・事業コーディネート ・技術検証 ・技術指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業コーディネート ・技術検証 ・技術指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業コーディネート ・技術検証 ・技術指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業コーディネート ・技術指導 ・技術の普及 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業コーディネート ・技術指導 ・技術の普及
JAあわ市、JA板野郡	<ul style="list-style-type: none"> ・農業者との調整 ・技術指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・農業者との調整 ・技術指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・農業者との調整 ・技術指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・農業者との調整 ・技術指導 ・技術の普及 	<ul style="list-style-type: none"> ・農業者との調整 ・技術指導 ・技術の普及
阿波市 (農業振興課)	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局 ・第3次阿波市農業振興計画に基づく、環境と調和した農業生産活動の普及浸透 ・事業実施手続き 	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局 ・第3次阿波市農業振興計画に基づく、環境と調和した農業生産活動の普及浸透 ・事業実施手続き 	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局 ・第3次阿波市農業振興計画に基づく、環境と調和した農業生産活動の普及浸透 ・事業実施手続き 	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局 ・第3次阿波市農業振興計画に基づく、環境と調和した農業生産活動の普及浸透 ・事業実施手続き 	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局 ・第4次阿波市農業振興計画に基づく、環境と調和した農業生産活動の普及浸透 ・事業実施手続き

※新たな営農技術体系の普及・定着に向けての役割及び取組内容を具体的に記載してください。

※記載欄は適宜追加する等調整してください。

第4 その他(任意項目等)

※販売形式、販路開拓の検討状況、出荷先、PR方法等の販売方法や、他の補助事業等を活用した機械導入等の環境整備の計画等、栽培体系の普及に向けて位置付けておく事項があれば、**適宜記載欄を設けて記載。**